

2 姫路市の現況

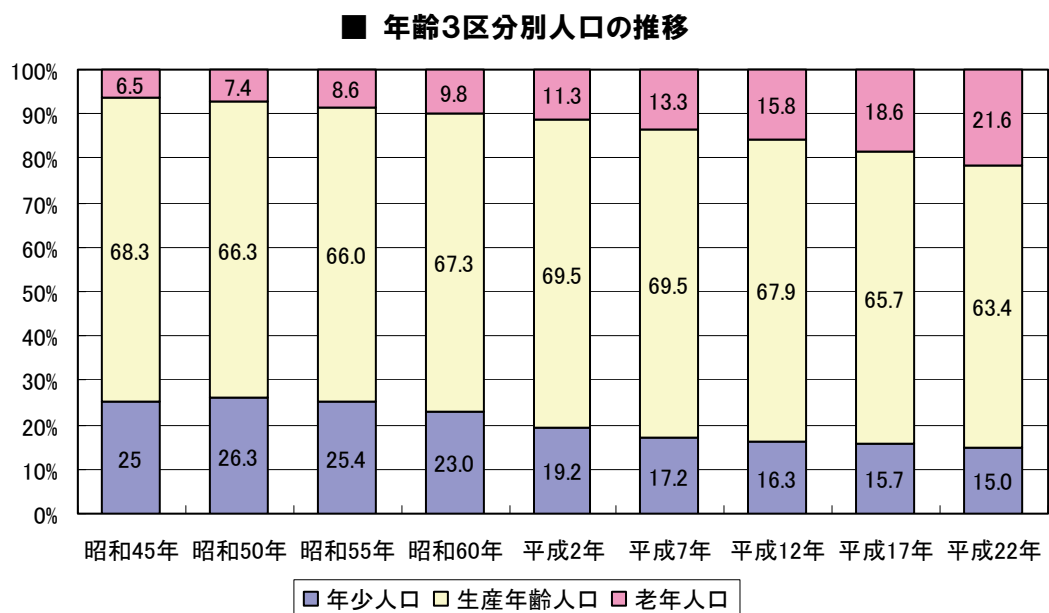
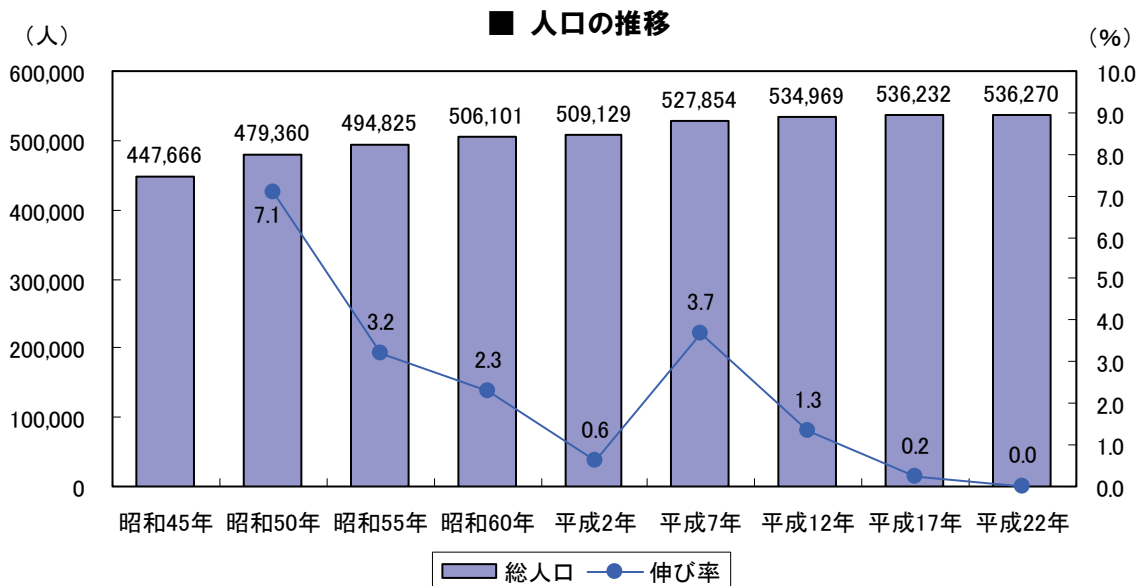
(1) 人口

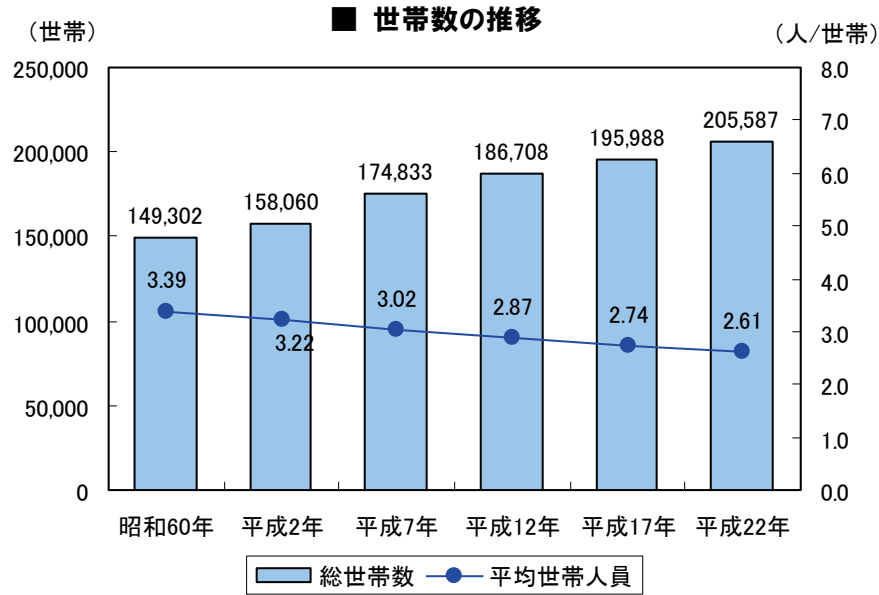
① 人口・世帯数の推移

本市の人口は536,270人（平成22年）であり、県内第2位、中核市の中では船橋市、鹿児島市に次ぐ人口規模を有しています。また、合計特殊出生率は全国平均を上回る1.4台であり、50万人以上の市では高い水準にあります。

しかし、近年では人口の増加傾向が鈍化するとともに少子高齢化が年々進行し、生産年齢（15～64歳）人口は、平成7年をピークに減少しています。また、平成17年以降、老年（65歳以上）人口が年少（15歳未満）人口を上回っています。

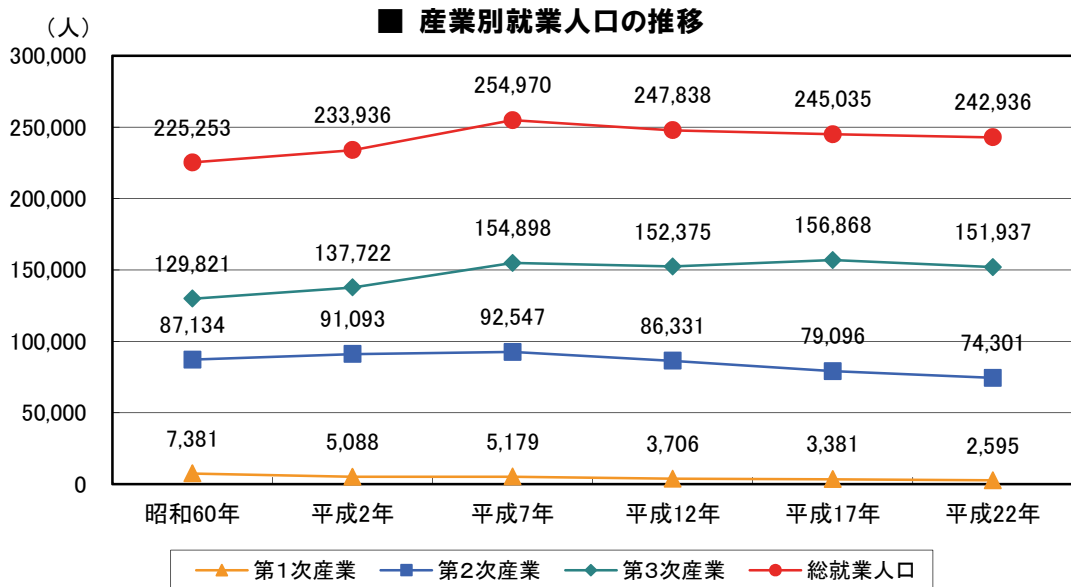
人口の増加とともに世帯数も増加傾向にありますが、核家族化や単独世帯等の増加により、平均世帯人員は減少しています。



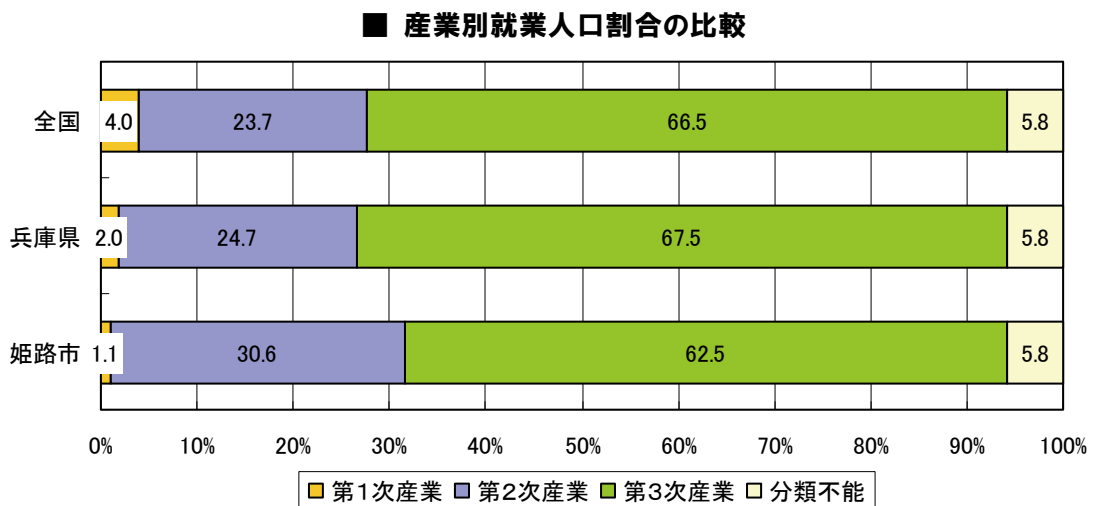


② 就業人口の推移

本市の就業人口は242,936人（平成22年）であり、平成7年の254,970人をピークに減少に転じています。このうち、第1次産業及び第2次産業については平成7年以降、一貫して減少を続けており、第3次産業については平成22年に減少に転じています。産業別就業人口の割合をみると、第2次産業の比率が全国平均より高くなっています。



資料：国勢調査



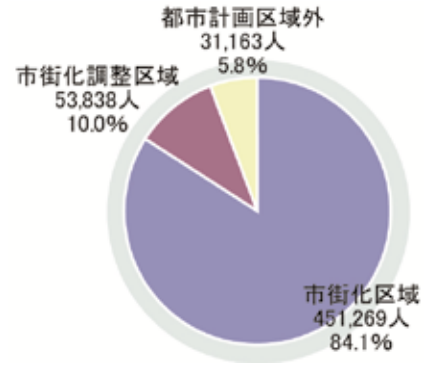
資料：国勢調査

③ 人口の分布

本市では、姫路駅周辺や臨海部の既成市街地を中心に多くの人口が分布していますが、市街化区域の周辺部においても広く人口が分布しています。

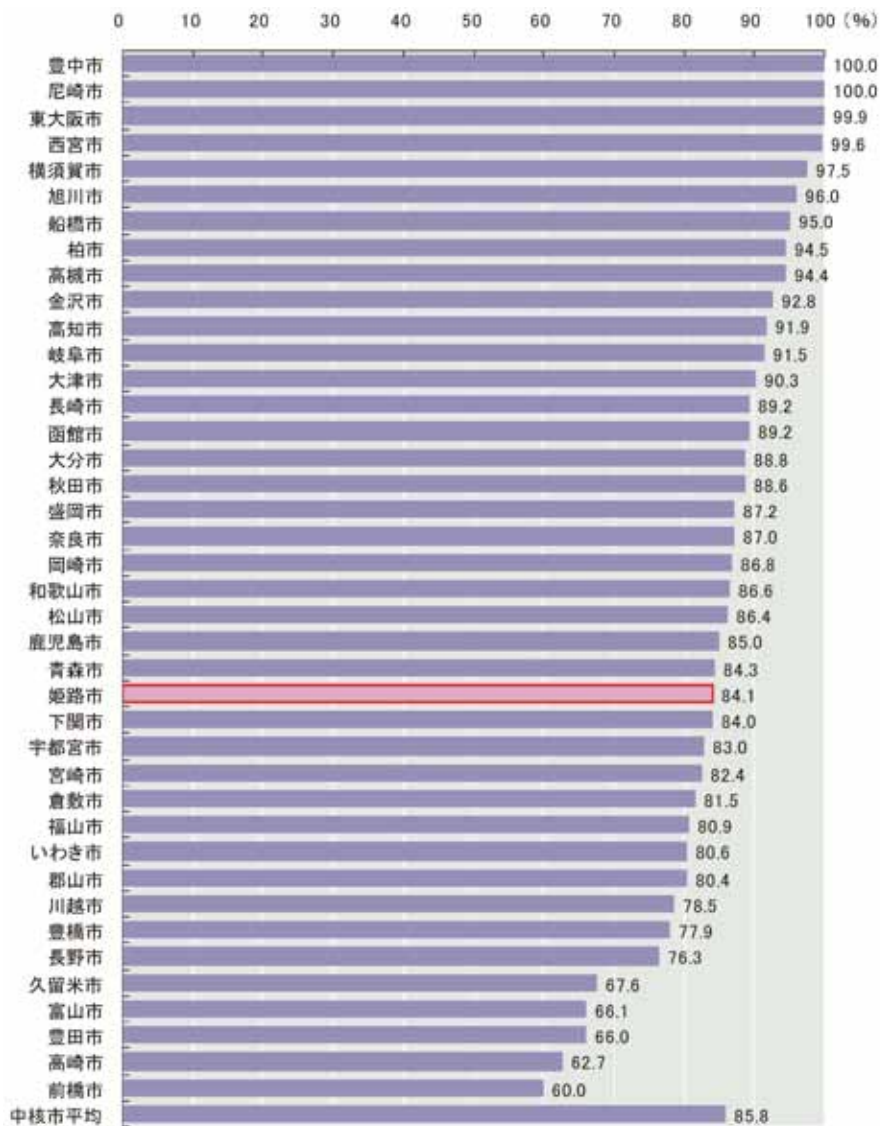
平成22年現在では、人口の約84%にあたる451,269人が市街化区域に居住しているものの、約10%にあたる53,838人が市街化調整区域に居住しているなど、他の中核市と比べて、比較的多くの住民が市街化調整区域等で生活しています。

■ 区域別人口(平成22年)



資料：国勢調査

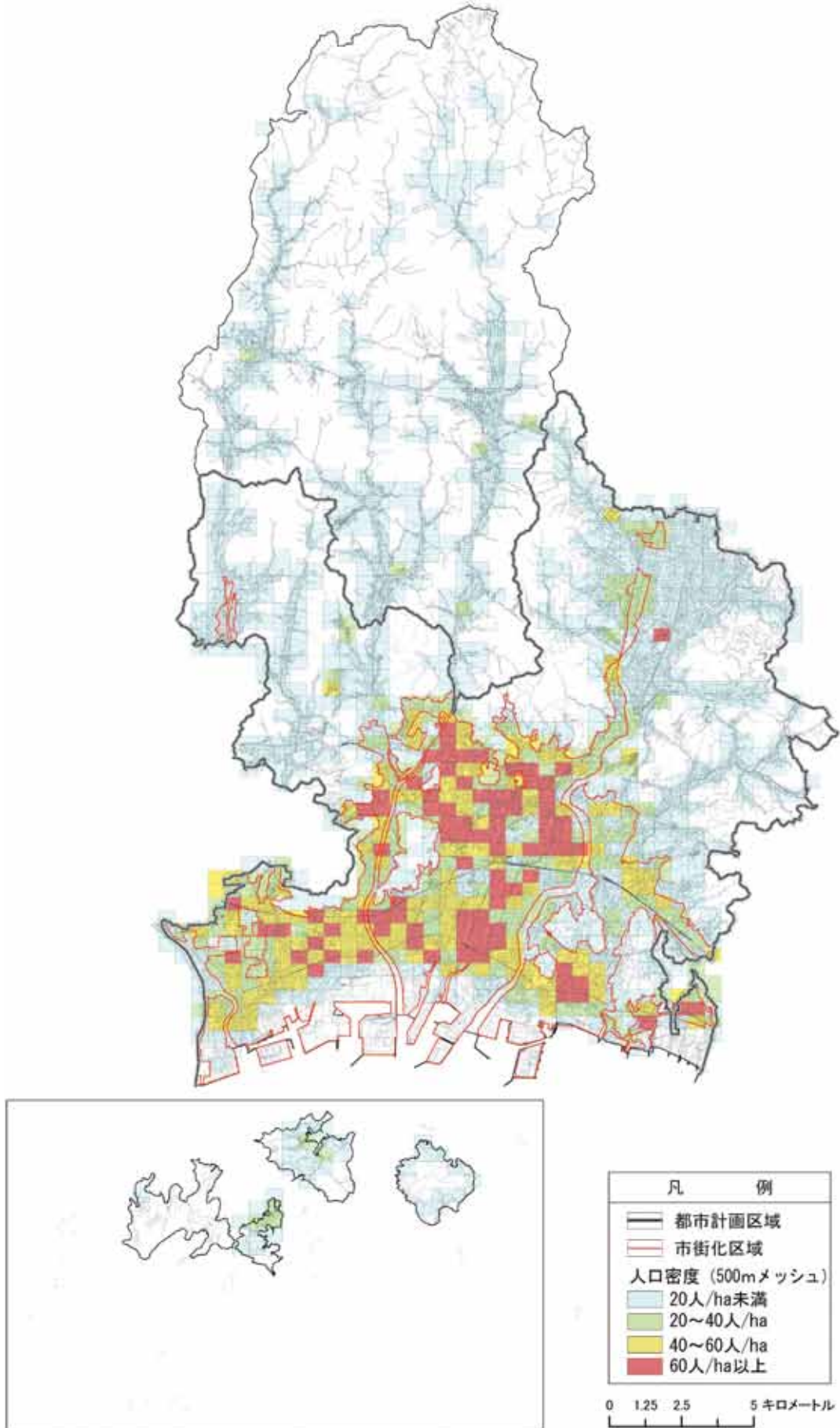
■ 中核市別市街化区域内人口の比較(平成22年)



資料：国勢調査

注：高松市は区域区分を設定していないため、比較対象から除いている。

■ 人口密度の分布(平成22年)



資料：国勢調査

(2) 土地利用

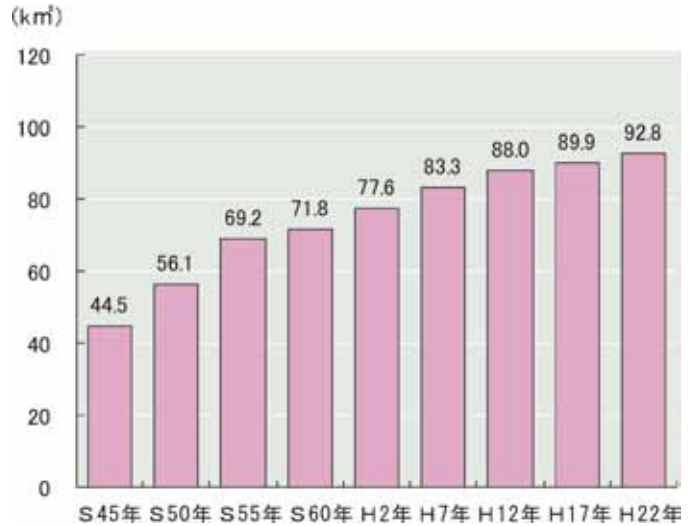
① 市街地の変遷

増加する人口に対して市街地が拡大してきた結果、D I D（人口集中地区：人口密度が1 km²当たり4,000人以上である地区）の面積は、昭和45年から平成22年の40年間で2倍（92.8km²）に増加しています。

その一方で、平成22年現在におけるD I D内人口比率は71.6%であり、中核市平均を下回る水準にあります。

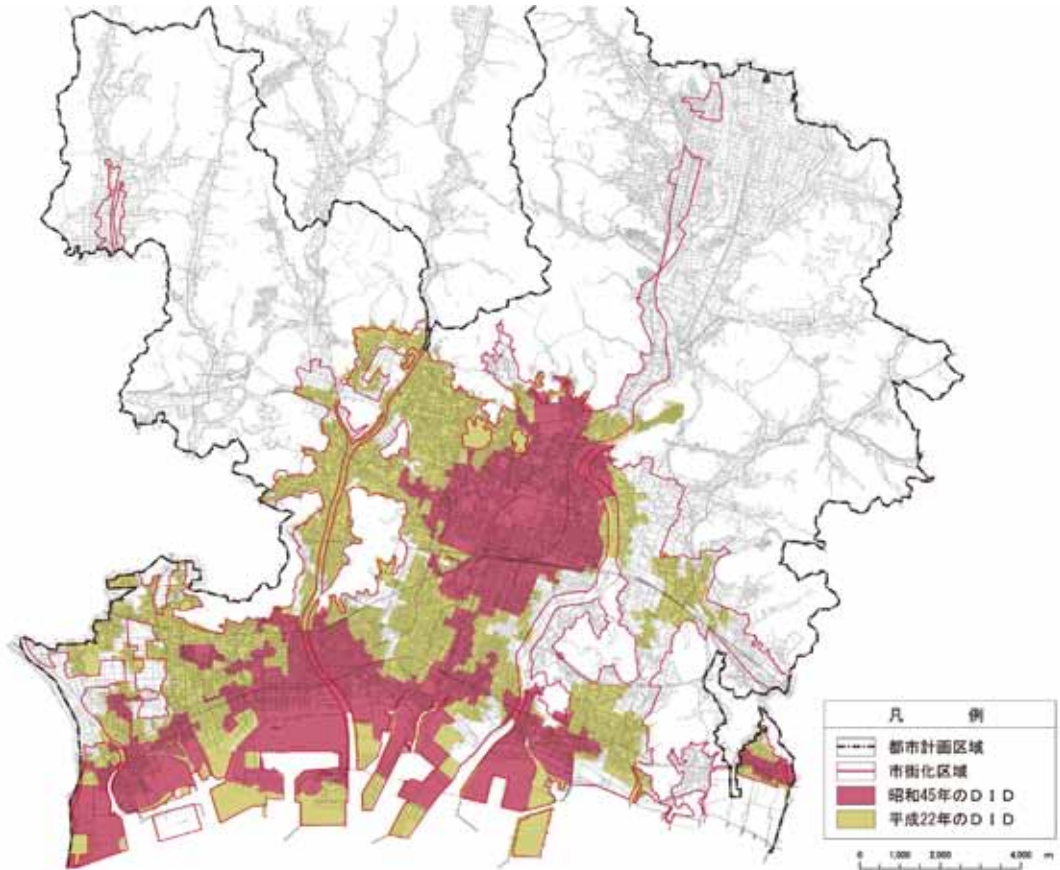
他の中核市と比べて、本市では、稠密な市街地を形成していない集落等が散在しています。

■ DID面積(人口集中地区)の推移



資料：国勢調査

■ DID(人口集中地区)の変遷



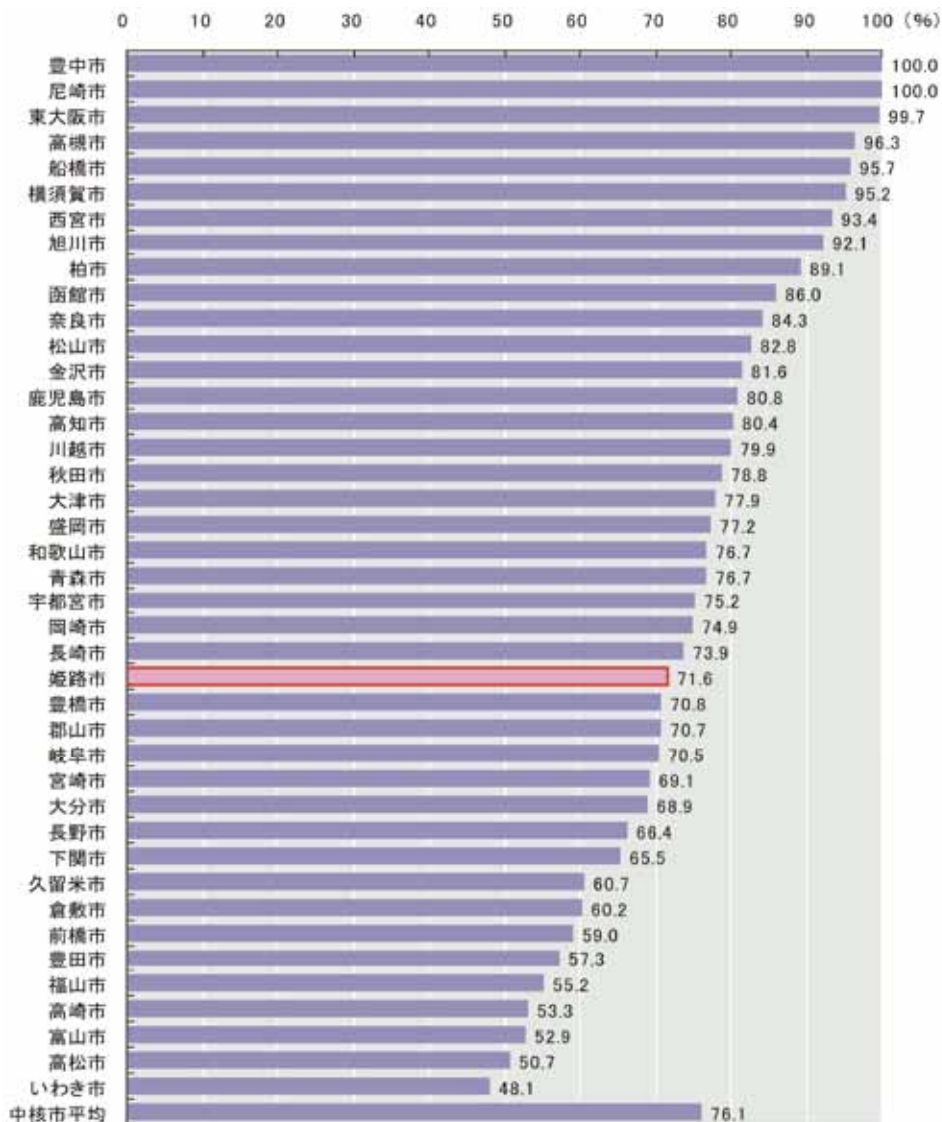
資料：国勢調査

■ DID内外の人口及びDID内人口比率の推移



資料：国勢調査

■ 中核市別DID内人口比率の比較(平成22年)



資料：国勢調査

② 土地利用現況

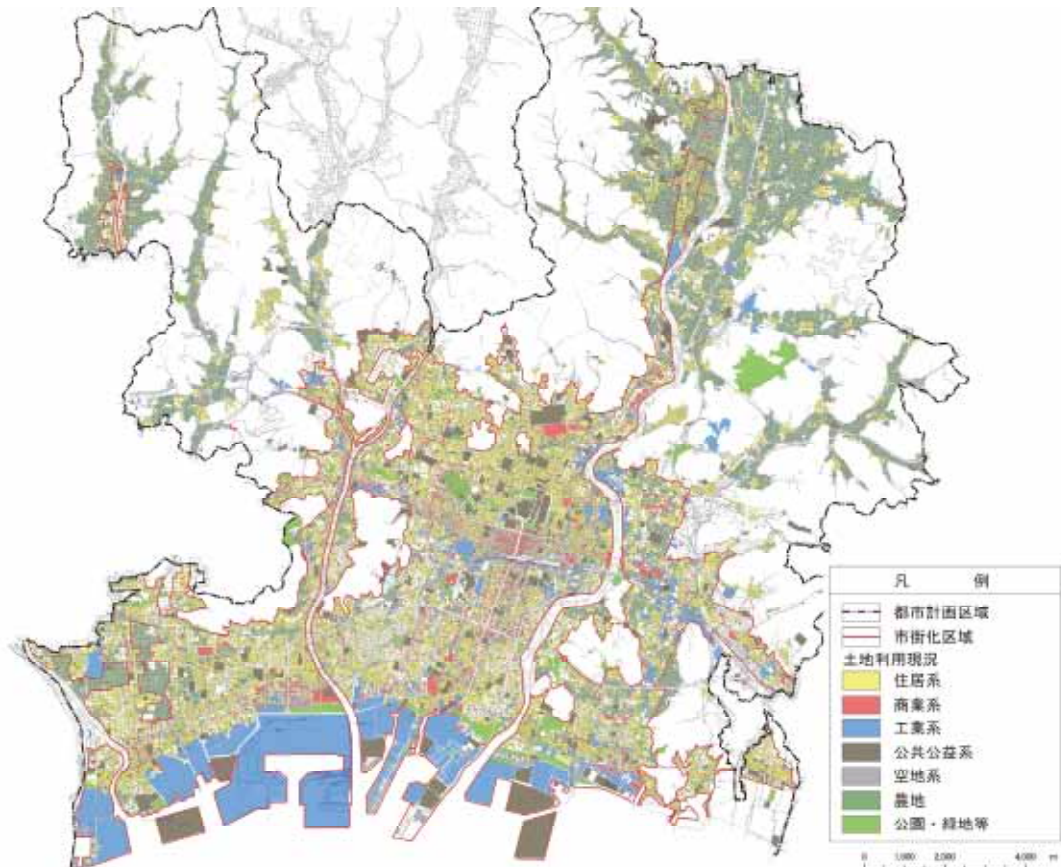
本市は、平成18年の市町合併により面積が約2倍になり、従来の都市部に加えて海、山、川の豊かな自然を有する都市となりました。

また、市域の約58%にあたる30,753haが都市計画区域に指定されています。このうち、市南部の低地を中心とした11,058ha（市域の約21%）が市街化区域に設定されています。

市街化区域では、住宅地のほか姫路駅周辺等の商業地や臨海部の工業地といった都市的土地利用が展開していますが、古くからものづくり産業が営まれてきた本市では、住工混在地等が広い範囲で分布しています。また、一部の地域では、農地等の空閑地が多く残っています。

市街化調整区域では、市川や林田川、大津茂川等の河川沿いに農地が広がり、各地に集落が点在しています。一部の地域では、住宅団地や工業地等の都市的土地利用が展開しています。

■ 土地利用現況



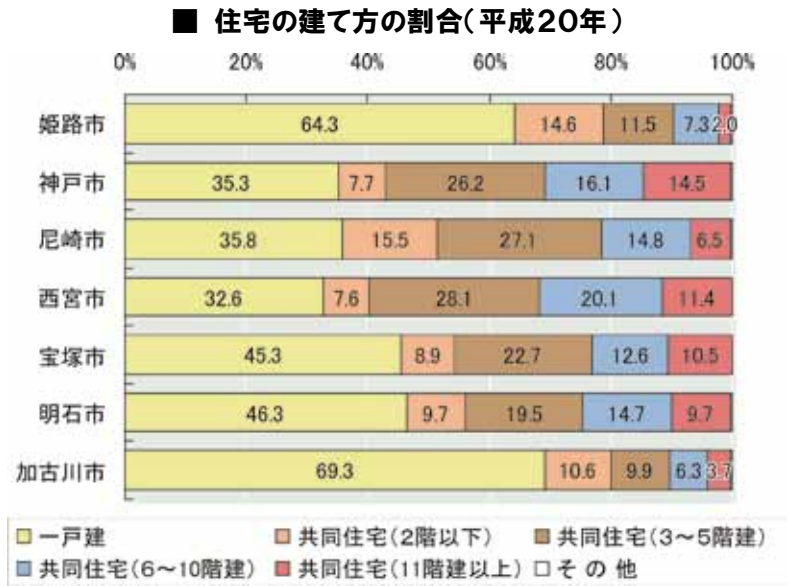
資料：平成17年度都市計画基礎調査

注：上記図面は、基となる資料の関係上、都市計画区域のみ表示しています。

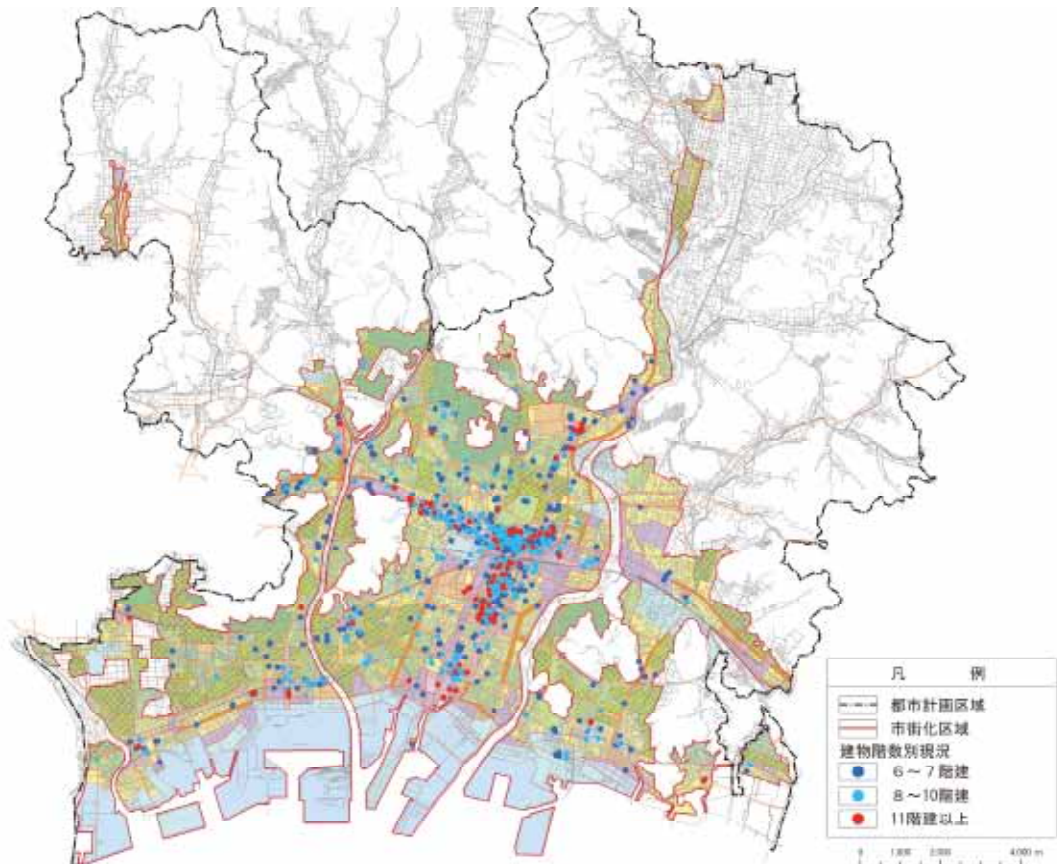
③ 建築物の高さの状況

本市における住宅の立地状況は、阪神間の主要都市と比較して戸建住宅等の低層住宅の割合が高く、住宅市街地は中低層の形態が一般的となっています。

6階建以上の中高層建築物の立地状況をみると、姫路駅周辺の都心部や主要鉄道駅周辺に集積しているほか、幹線道路沿道に分散して立地しています。



■ 建物階数別現況



資料：平成20年度都市計画基礎調査

注：上記図面は、基となる資料の関係上、都市計画区域のみ表示しています。

(3) 都市施設

① 交通

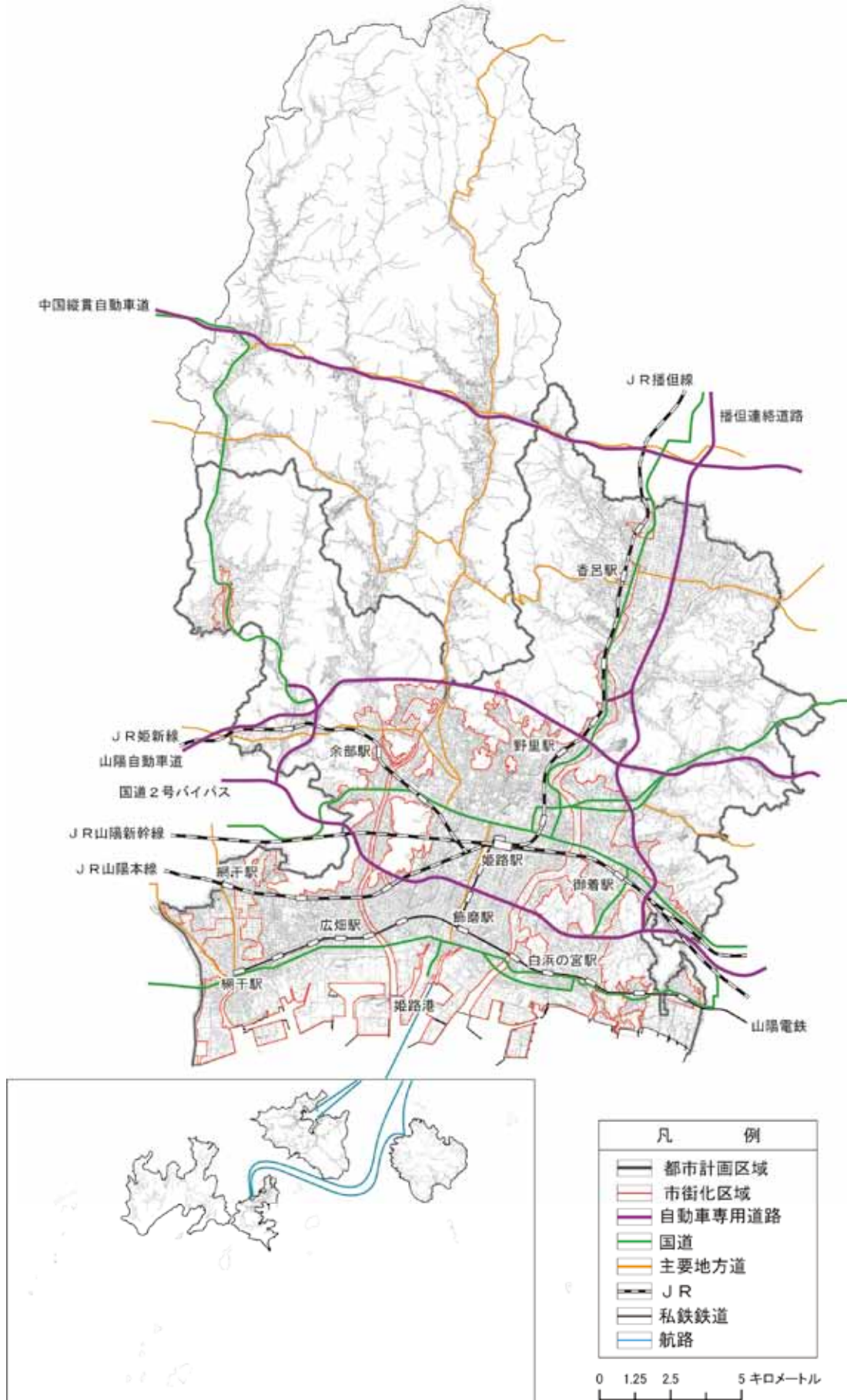
本市では、東西方向の山陽自動車道、中国縦貫自動車道、国道2号バイパス（姫路バイパス）、国道2号、国道250号と、南北方向の播但連絡道路、国道29号、国道312号、国道372号によって広域的な幹線道路網が形成されています。また、これらの道路網に加えて、播磨地域の産業・経済活動発展の基盤として、播磨臨海地域道路網の検討が進められています。

また、本市の公共交通は鉄道、バス、旅客船で構成されています。鉄道は、東西方向のJR山陽新幹線・山陽本線、山陽電鉄本線・網干線、南北方向のJR播但線・姫新線があります。市内には30の鉄道駅があり、鉄道交通は比較的充実していますが、夢前町、安富町方面は鉄道空白地となっています。

主なバス路線は、姫路駅を中心として、市内各地に放射状に広がっていますが、その一方で、環状方向のバス路線が不足しています。

旅客船については、姫路港と家島町を結ぶ姫路港～家島、姫路港～坊勢島の2航路が運航されています。姫路港～坊勢島の運航便の一部は、男鹿島や西島へ寄港しています。

■ 交通の現況



② 都市計画道路

市街地内の幹線道路は、3環状道路と10放射道路を中心に構成されています。これらの幹線道路のうち都市計画道路については、139路線、延長約322kmが計画されており、平成25年度末現在における整備済延長は約208kmで、整備率は約65%となっています。

また、未整備路線のうち、約96%にあたる50路線、約100kmについては、新設又は現道拡幅の計画を定めた時から20年を超えている状況です。特に、市街地に集中する自動車交通を分散する効果が期待できる環状道路の整備が遅れています。

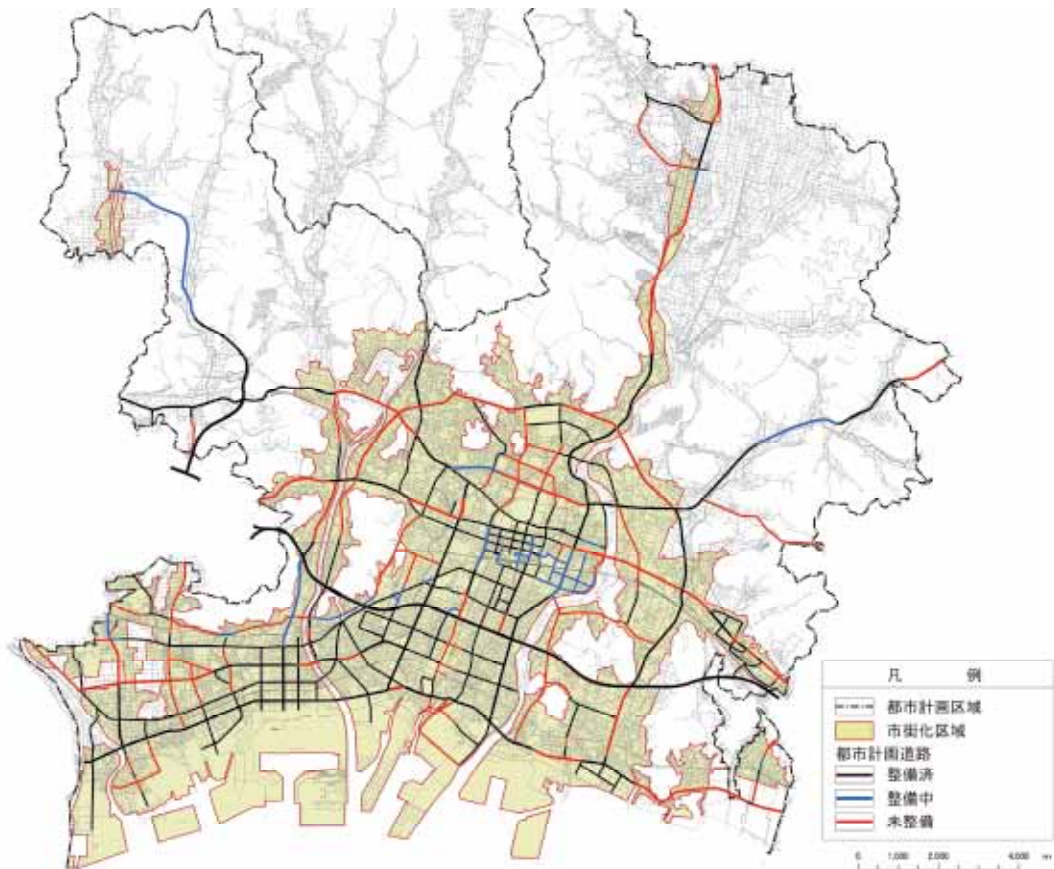
■ 都市計画道路の整備状況

単位：m、%

種別	路線数	計画延長	整備済延長	整備率
自動車専用道路	1	2,900	2,900	100.0
幹線街路	110	305,840	192,340	62.9
区画街路	20	10,390	9,850	94.8
特殊街路	8	3,240	3,030	93.5
合計	139	322,370	208,120	64.6

注：平成26年3月31日現在

■ 都市計画道路の整備状況



注1：平成26年3月31日現在

注2：上記図面は、基となる資料の関係上、都市計画区域のみ表示しています。

③ 都市計画公園・緑地

本市の都市計画公園は294公園、面積665.6ha、緑地等については3箇所、87.0haが都市計画決定されており、代表的なものとして、世界文化遺産姫路城を含む姫路公園や自然環境を生かした桜山公園、手柄山中央公園等があります。また、臨海部の工業地帯とその後背地における住民の生活環境の保全を図るため、浜手緑地が整備されています。

平成25年度末現在における都市計画公園・緑地の整備状況は、計画面積約753ha(297箇所)に対して整備済み面積が約344ha(226箇所)で、整備率は約46%となっています。

また、未整備公園・緑地のすべてが新設の計画を定めた時から20年を超えている状況です。

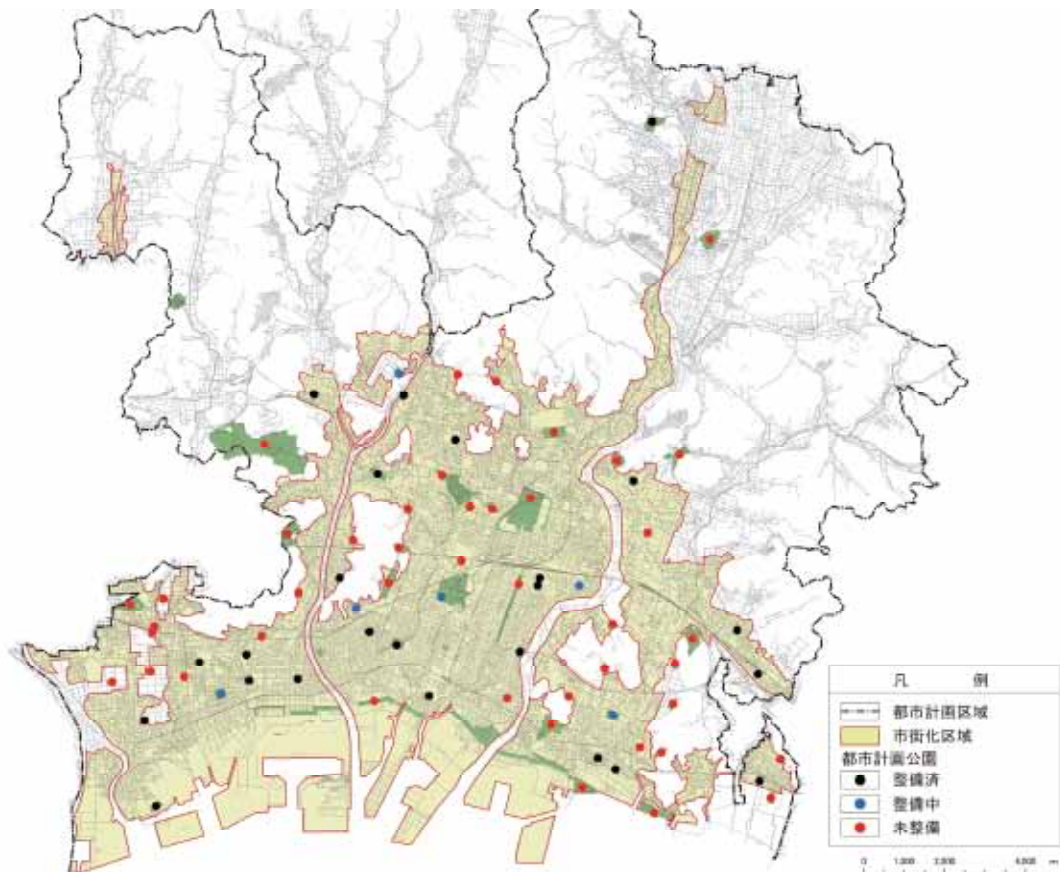
■ 都市計画公園・緑地の整備状況

単位：ha、%

種別	箇所数	計画面積	整備済み面積	整備率
街区公園	222	54.2	48.2	89.0
近隣公園	44	92.7	37.6	40.6
地区公園	16	117.4	33.2	28.2
総合公園	10	369.5	141.3	38.2
運動公園	1	15.4	8.0	51.9
風致公園	1	16.4	0.5	2.7
緑地等	3	87.0	75.6	87.0
合計	297	752.6	344.3	45.8

注：平成26年3月31日現在

■ 都市計画公園・緑地の整備状況(街区公園を除く)



注1：平成26年3月31日現在

注2：上記図面は、基となる資料の関係上、都市計画区域のみ表示しています。